

3-3-4 中尾峠

飛騨と信州を結ぶ中尾峠の起点 —鎌倉街道から飛騨新道へ—

中尾峠は科乃峠とも称され、古くから飛騨と信濃を結ぶ要衝であった。鎌倉と各地を結ぶ「鎌倉街道」も、また長野の善光寺参りの道もこの峠を通ったと言われる。

この峠は、焼岳の爆発、その他で通行できない時期もあったが、江戸時代末には、北陸・飛騨と信州を結ぶ最短の街道として「飛騨新道」が切り開かれ、中尾村の麓の蒲田に中尾口留番所を設置、口役銀の徴収と交通の便を図った。

このお堂の石仏は、江戸時代前期の作で、道中の安全や村人の生活の支えとして、厚い信仰と歴史が刻み込まれている仏像である。

中 尾 区
上宝村教育委員会

説明板より